

公民第1章第3節（前半）

授 業 案

第 1 時 （対立と合意）

段階	主な発問・指示	指導上の留意点 支援の内容
導入 【3分】	●「これからは、皆さんの身の回りの問題をどう解決してゆくか、どういうルールを作っていくのが良いかということについて、勉強していきたいと思います。」 「今回は、まず、皆さんの周りにどんな集団があり、そこで意見が分かれたり、対立したとき、どう解決してゆくかについて、考えてみたいと思います。」	
展開1 【15分】	○教科書22頁「社会的存在としての人間」を生徒に読ませる。 【ここでワークシートを配布】 ●「皆さんの身の回りにも、様々な集団があると思います。皆さんの周りにある集団を、思いっただけ考えてみて下さい。」 → ○ワークシートに記入させる（約5分）。 ○その上で、どんな意見が出たか発表させる。	○答えの例としては、家族、学校、クラス、部活、町内会、学習塾等々、多岐にわたる答えが予想される。 ○どのような答えでも正解。むしろ、多岐にわたる答えを板書し、これほど多くの社会集団に属しているのだということを、意識させる。
展開2 【25分】	●「それでは、その社会集団の中のことを考えてみましょう」→ ○教科書22頁「社会集団における対立と合意」の内、23頁9行目までを生徒に読ませる。 ○ワークシートの家族の中での「対立」の例を紹介し、家族の中でも、このような意見の対立があることを意識させる。 ↓ ●「でも、その対立をそのままにしといはいけませんよね」→ ○教科書23頁10行目以下を、生徒に読ませる。 ●「対立をそのままにしておいても、何の解決にもならないわけで、解決策を考えて、合意を目指すということですね。」 ↓ ○発表された社会集団の内部での「対立」の事例を、生徒に手を挙げて発表してもらい、その解決の事例を発表させる。 生徒には、その対立の事例と解決の方法をワークシートにメモさせる。 ○発表した事例をもとに、対立を解消し合意させるために必要なことを生徒に考えさせる。	○ここでのいう「対立」とは、意見の相違等、トラブルに発展する前の段階を含めて考える。人間関係の悪化やトラブルに至らなくとも、意見の相違は存在し、解決すべき問題だということを理解させたい。（人間関係の悪化やトラブルを避けるため、又はトラブルが発生して意思待った場合でも、円満に解決するため、上手に「合意」する必要があるということである。） ○ここまでの部分で、教科書に沿った授業は終了したと言えるが、より理解を深めるため、生徒の経験を発表させ、身近な問題を意識させるべき。その観点で、この授業案は作成している。 ○様々な考え方があって良いことだが、「自分の考えや欲求、意見を主張するだけでなく、対立している相手の話を聞くこと」については、確実に意識させる。ワークシートに、この文章を書き写させても良いかもしれない。
まとめ 【2分】	●「次の時間では、皆が納得できるような合意ができるようにするにはどうしたらよいかを考えてみたいと思います。」	

第 2 時 (効率と公正)

段階	主な発問・指示	指導上の留意点 支援の内容
導入 【5 分】	●「今回は、皆が納得できるような合意には、どのようなことが大切になるかをについてどうするかを考えてみたいと思います。まず教科書を見てみましょう。」→○教科書 24 頁「みんなが納得するためには」を生徒に読ませる。	○効率と公正という 2 つの概念を、今回の授業のポイントだと意識させる
展開 1 【12 分】	●「それでは、まず効率の方について、勉強したいと思います」→○教科書 24 頁「効率とは」を生徒に読ませる。 ●「ちょっとわかりにくいかもしれませんので、教科書とは別の例を出してみたいと思います。」 【ここでワークシートを配布】 ○ワークシートに沿って授業を進める。 ○シングルライダーの目的について、生徒に考えてもらい、ワークシート①と②の部分に記入をさせる（5 分程度）。 ○その後、生徒に考えたことを発表させる （※理解力と授業時間に不安があれば、生徒に手を挙げさせ、出てきた意見をワークシートに記入させても良い。クラスのレベルと実情に合わせて、使い分けていただきたい。） ○生徒から出てきた意見を踏まえ、生徒にワークシートのまとめ部分を記入させつつ、効率の概念を再確認する。 【発展】 ○「考えてみよう」の部分に従い、生徒に考えさせた上で、発表させる。	○できれば、シングルライダーについて、座席の概略図を使って説明してあげると、よりわかりやすいと思われる。 ○2 人組や 3 人組が多いテーマパークで、1 人分の席が空くことが、「座席」という資源の無駄となるため、座席を効率的に（無駄なく）使うことが出来るルールづくりをしている。それが主たる答えだが、裏返せば、1 人あたりの待ち時間を減らすことにもつながる。従って、時間の無駄を省くというのも誤りでなく、別解と考えて良いだろう。 ○（ ）の中に入る言葉は、3 つとも「座席」である。 ○ここまで考えさせれば、より理解が深まると思われるが、授業時間との関係で、無理がある場合もある。飛ばしてもよいし、宿題にしても良い。
展開 2 【25 分】	●「それでは、次に公正について、考えてみることにしましょう。」→○ワークシートの事例を、生徒に読ませる。 ○ワークシートの最初の問題（①）について、生徒に考えさせる（7 分程度）。	○公正については、ワークシートを前提に授業を進める授業案にしている。 ○理由の付け方によっては、どの選択肢ももつともであり、公正を判断する尺度によって、正解が異なる。むしろ、考えの多様性を生徒に理解してもらう問題である。 あくまで順番を最優先 → グループ内で 3 人先行で入ってゆく → 誰も席に着かず、待ち続ける（→順番を最優先しつつ、グループは一体と考える） 座席の効率性を最優先 → 3 人家族が先行 早く食事をすべき必要性を最優先 → 後からきた男の人を優先

	○どれを選んだか、手を挙げさせ、人数を数える。 ○それぞれの意見の人から、理由を発表させ、板書する。意見が出そろった段階で、別の考えの人から意見を出してもらい、板書してゆく。 → ○ワークシートの②の部分には、板書の内容を記載させれば良い。 ○それぞれの考え方について、どれが一番「公正」かを生徒から意見を聞く。 ○公正を判断する物差しが、一つしかないということではなくて、状況によって、変化しうることを説明し、教師においてまとめる。 ↓ ●「このように、公正は、状況やいろんな人の事情によって、違った判断をすることもあるわけです。そうすると、今回の場合に、誰が店の中に入るかを決めるため、どういうことが大切ですか？」 → ○生徒に発表させ、板書し、ワークシートの③に記入させる。	○意見の引出し方、その意見に対する評価の仕方に、やや工夫が必要。 ○順番通りという意見が、一番多くならないように誘導したいところ。つまり、様々な事情によって、「何が公正か」が変化しうることを生徒に実感させたい。 ○「手続の公正」を教えるために、敢えて、このような問いを準備した。 事情の異なる人が3組いるわけだから、事情を聞かなければ、事情が異なること自体も理解できない。また、自分の意見だけでなく、相手の意見を聞く態度がなければ、出てきた意見を公正に扱うことにはならないであろう。 ※ この展開2については、特に、弁護士による出前授業が最も得意とする授業形式であり、弁護士の参加により充実した授業が実現できると思います。授業方法など悩まれましたら、遠慮なく弁護士派遣をご要請ください。(弁護士派遣は無料です。)
まとめ 【2分】	○「効率と公正は、言葉は難しいですが、どんなことなのかという中身を理解しておいて下さいね。」 ○「次回以降は、この2つの考え方も踏まえた上で、ルールを作る方法について、考えていきたいと思います。」	

※ 以上は、あくまで一例であり、学校の実情や先生方のお考えに従い、自由に変えていただきながら、お役立ていただけると幸いです。

また、授業実施に当たり、弁護士の派遣をご要請いただいた場合には、授業の進めかたから先生方と弁護士との役割分担まで、全てフレキシブルに対応します。どんなことでも、ご相談下さい。